

2022年度 自然保育推進事業 活動報告書

1 団体名

麦わらぼうしこどもえん

2 今年度の活動概要

保育実践と外部に向けての推進活動

保育研修(座学)&公開保育・保育者と保護者とのディスカッション

自然保育の実践をされている東広島市の公立保育所からのご依頼で、4施設合同の研修を麦わらぼうしからご提案した内容にて二回連続で行う。

一回目は麦わらぼうしの代表が施設に出向き、スライドショーや動画を見ていただきながら講演を行う。

依頼されたテーマは“自然保育”についてだったが、実際にお話しした内容は「子どもこそ自然な存在で、大人が子どもの内なる自然にこそ目を向けなくてはならない」的なお話に終始する。



二回目は“麦わらぼうしこどもえん”にての公開保育と、当園の保護者と参加された保育士さんたちとのディスカッションの時間を設ける。

ディスカッションの時間は、園の保護者からの提案で3グループに分かれての意見交換を行う。保護者の立場・公立保育所の立場で率直な意見が飛び交った。

初めての試みだったが参加された保育士さん、園の保護者の方々共に有意義な時間だったようで、次回に繋げていきたいとの声をいただく。

【参加者からの感想】

・保護者の皆さんが楽しそうに園のこと、子どものことを話しておられるのが印象的で衝撃的だった。スタッフに絶大の信頼を置いていると感じた。自分の園では？と感じることも多く、子どもが真ん中にいるはずなのに、いつの間にか行政、保護者、保育士が中心にいる保育になっている。保育士が子どもを動かしていると感じた。

・スタッフと保護者の信頼関係、絆の強さを感じました。保護者の皆さんの話を聞き、子育てするのが楽しいと自信を持って言われている姿にわが園では、このように言ってくれる方がおられるだろうかとの疑問に思い、とても素敵な関わりをされているのだと思いました。稲垣さんの言葉、「子どもの心の自然を大切にしていくことこそが大事」と聞き、原点に戻れたような気がしました。様々なことを考えさせられる時間となりました。なかなか生の保護者の声を聞かせて頂けることもないので、このような場をつくっていただき、感謝です。ありがとうございました。

・戸外で子ども達の遊びを見ていた時、「これは痛い葉っぱよ」と教えてくれた子がいたが、「どうして知ったん？」と聞くと「きょうりゅうの服の子が教えてくれたんよ」と話してくれました。その子は痛い葉の間を通り抜けて見せてくれたが、その近くにいた子は石遊びを続けていた。大人が危険を見極め指導しなくても、自分ができるとの確信がないと行動しないし、挑戦しないと思った。麦わらぼうしの保育を見せていただいたことは、自分の園での保育を振り返るいい機会となった。

・見学の際に、子どもたちから聞いた「麦わらぼうしは子どもを信頼しているところなんよ！」の言葉に、その日一番のお土産をいただいた気持ちになりました。



3 今年度の保育を振り返って

今年度も、保育や幼児教育の関係者のみならず様々な方にご来園いただいた。いまだマイノリティーな存在ではあるが“子どもを中心とした社会”の必要性が少しずつ認識されてきているようにも思う。

当園は、けっして自然保育に特化した園生活を送っているわけではないが、子ども主体の生活を送るにあたっては保護者の理解と共感をもっとも重要であると、他園との交流の中で感じ取れた。

4 主催研修会

＊『こども学セミナー2022』 開催日 6月4日（土）・5日（日）

セミナーテーマ：「遊びをせんとや生まれけむ…

～ 幼児教育の原点に戻って“あそび”について考察してみる」

＊『こども学セミナー2022 ぷらす』 開催日 11月19日（土）・20日（日）

セミナーテーマ：「子どもの権利・人権の観点から“学びのあるべき姿”を考える」